

そこで、家庭学習を進めていく上でのヒントとして、「9教科の学習計画とシラバス」を配布します。このリーフレットを読み、何をすればよいかをしっかりと理解して、自学自習する学習習慣を身につけましょう。

この冊子には、9教科のより細かな学習内容を掲載しています。どの時期にどのような内容を学習するの
かをお知らせし、家庭学習の計画を立て、目標をもって学習をすすめやすくなっています。さらに、観点別に
評価の内容を掲載していますので、何をがんばればよいのかもわかるようになっています。

小テストや実技テストなど自分の苦手な内容を予習することで苦手克服につながる学習もできます。ぜひ、この冊子を活用して、どんどん自分の実力を伸ばしましょう！！

なお新学習指導要領への移行により、変更された学習内容については☆印を付けて示しています。

家庭での学習習慣をしっかりと身に付けるきっかけとしてこのリーフレットをご利用いただき、お子様と中学校の学習について話し合ってみてください。

2025年度

葛城市立白鳳中学校

奈良県葛城市長尾14番地1

TEL 0745-48-2054 FAX 0745-48-3451

(E - m a i l) hakuhou-chu@katsuragi.ed.jp

(Homepage) <https://www.city.katsuragi.nara.jp/hakuhouchu/>

2 年()組()番 名前()

目 次

p. 3	国 語 科
p. 4	社 会 科
p. 5	数 学 科
p. 6	理 科
p. 8	音 楽 科
p. 9	美 術 科
p. 11	保 健 体 育 科
p. 12	技 術 ・ 家 庭 科
p. 16	英 語 科

※年間の学習計画は、予定ですから、変更する場合があります。予めご了解下さい。

※シラバス (Syllabus) とは、日本では講義・授業の大まかな学習計画のこと。(Wikipedia より)

本校では、次のように考えています。

- ①各教科の1年間の学習計画、学習内容、評価の観点と基準を示す。
- ②生徒が授業前の予習、授業での学習、授業後の復習を、計画と目標をもって行えるようにする。

家庭での学習はとても大きな意味を持ちます。このリーフレットは家庭での学習の計画を立て、頑張るところを理解して学習に取り組めるように作成しました。特に、学校の授業で学習したことを定着させる復習は次の授業につながる大切な学習方法です。家庭での学習を大切にしましょう。

授業を受ける前に……

1. 教科書やノートなどの**持ち物**を忘れない。
2. 授業を受けるときの**前向きな姿勢や気持ち**を大切にする。
3. 授業後は家庭での**復習**を大切にする。

授業での学習の進め方

1. 準備

- ★時間を守るチャイムと同時に授業開始の挨拶をしましょう。
(机の周辺を整理し、カバンは後ろのロッカーに入れておきます。)
- ★机の上には学習用具(筆記用具・教科書・ノート・ワークなど)の準備を完了しておきましょう。

2. 授業中

- ★先生の話を聞くことを大切にして、ノートを丁寧に記録しましょう。
- ★先生の質問には、積極的に手をあげて、みんなによく聞こえる声で答えましょう。
- ★ペアやグループでの学習では、教え合ったり、説明したり、なかまの言うことを理解しようとしたりしましょう。

3. 授業後

- ★学習したことをもう一度振り返って、ワークの問題を解いたり、書いたりしましょう。

家庭での学習の進め方

1. 予習

次の授業で学習する内容をノートに写しておきましょう。国語であれば漢字、英語であれば単語や熟語など、前もって自分で書いたり調べたりできることを授業の前におきましょう。

2. 復習

授業を受けたそのとき分かったこと・覚えたことも一日一日記憶から消えていきます。だから、理解したつもり、覚えたつもりで終わるのではなく、繰り返し何度も書いたり、覚えたり、考えたりすることで知識が定着します。復習の仕方として、自主勉強(学習)を作って活用しましょう。

- ①ワーク等を使って、色々な問題を解きましょう。
- ②何度も書いて覚えましょう。大切な語句、漢字、単語などを自主勉強(学習)ノートに自分は何回くらい書けば覚えられるのか最適な回数を見つけておきましょう。
- ③何度も教材文を読みましょう。
- ④実験したことを、実験順、結果などを思い出しながら自主勉強(学習)ノートにまとめましょう。
- ⑤調べたことや分かったことを自主勉強(学習)ノートにまとめましょう。

※自分にあった勉強方法を見つけるのは大変面倒で、むずかしいものです。しかし、苦労しながら身に付けた勉強方法は、自分にぴったりあった自分だけの方法です。そこへ行き着くまで、**あきらめずに続けましょう。**

◇国語科 年間の学習計画とシラバス

(国語科の目標)

国語の学習を通して、社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけます。また、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようになります。また、汎用的基礎読解力(教科書、新聞、マニュアル、契約書等の意味・意図を迅速かつ正確に読み取る力)の定着を図ります。そして、言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合うとする態度を養います。

(授業で使用するもの)

・教科書 ・ノート ・ワーク(国語の学習) ・学習漢字ノート ・新文法ノート

(評価の観点・方法)

国語科の評価は、日常の学習への取り組みや定期テスト、小テスト、ノート、提出物などをもとに総合的に判断しています。

具体的には以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の目安を定め、それに基づいて評価します。テスト前やテスト後に指示があったら、忘れずに提出しましょう。

【観点1. 知識・技能】
定期テスト(知識・技能分野)、小テストなどで評価します。
【観点2. 思考・判断・表現】
定期テスト(思考・判断・表現分野)、作文などで評価します。
【観点3. 主体的に学習に取り組む態度】
定期テスト、小テスト、授業への取り組み方、授業中の課題や提出物(ノート、ワークなど)への取り組み方などで評価します。

国語科2年 年間の学習計画と学習のねらい(週4時間/年140時間)

学期	主な学習内容	学習のねらい
1	・見えないだけ ・アイスブレイク ・意見を聞き、整理して検討する ・文法への扉1 単語をどう分ける？ ・魅力的な提案をしよう ・枕草子 ・クマゼミ増加の原因を探る ・情報を整理して伝えよう ・漢字1 熟語の構成 ・短歌に親しむ ・短歌を味わう ・言葉の力 ・言葉1 類義語・対義語・多義語 ・語彙を豊かに ・メディアの特徴を生かして情報を集めよう	・作品のイメージを広げ、作者の世界を捉える。 ・登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。 ・意見を聞き、根拠の適切さを検討する。 ・単語の働きを理解し、種類を分類する。 ・話の構成を工夫し、自分の考えがわかりやすく伝わるように話す。 ・古典の文章に興味を持ち、朗読して内容を理解する。 ・文章と図表を結びつけて、内容を読み取る。 ・集めた情報を、整理するときのポイントを理解する。 ・熟語の主な構成について理解する。 ・短歌の形式や表現に興味を持ち、その世界に親しむ。 ・語句の使い方や病者の工夫に触れながら、短歌を読み味わう。 ・文章の全体と部分の関係や具体的事例の役割に注意して読み取る。 ・対義語・類義語・多義語の意味について具体例に当てはめて理解する。 ・抽象的な概念を表す言葉を、類義語や対義語と比べて理解する。 ・情報を受け取るとき、発信するときの留意点を考える。

2	・ヒューマンノイド ・字のない葉書 ・表現を工夫して書こう ・言葉2 敬語 ・聞き上手になろう ・漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字 ・モアイは語る―地球の未来 ・適切な根拠を選んで書こう ・月夜の浜辺 ・平家物語―扇の的 ・仁和寺にある法師(「徒然草」から) ・漢詩の風景 ・君は「最後の晩餐」を知っているか ・「最後の晩餐」の新しさ ・文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。 ・立場を尊重して話し合おう	・登場人物の言動から、人柄や心情を捉える。 ・文章の構成や、その表現から、筆者の思いを考える。 ・目的に応じて通信手段を選び、表現を工夫する。 ・敬語の種類を学び、その場や相手に応じた正しい敬語の使い方を理解する。 ・話の展開に注意して、相手の思いや考えを受け止める。 ・漢字の訓や音に関心をもち、漢字について理解を深めようとする。 ・文章の構成や論理展開を吟味し、自分の考えを書く。 ・適切な根拠を選び、自分の意見が効果的に伝わる文章を書く。 ・詩を朗読し、響きやリズムを味わい、情景や心情を読み取る。 ・古典の文体や言葉のリズム感をつかみ、音読する。登場人物の心情を読み取る。 ・表現を味わいながら、作者の考え方について、自分の感じ方と比較する。 ・漢詩独特の言い回しに慣れ、詩の情景や人物の心情を想像する。 ・語句や表現の仕方に着目し、筆者のものの見方や考え方を読み取る。 ・観点ごとに文章を比較し、構成や表現の仕方について考える。 ・単語の活用の仕方について理解する。 ・立場を明確にして、根拠と共に意見を述べる。
3	・走れメロス ・文法への扉3 一字違いで大違い ・描写を工夫して書こう ・言葉3 話し言葉と書き言葉 ・漢字3 送り仮名 ・国語の学びを振り返ろう ・鍵	・登場人物の人物像や表現の効果などに注目して、作品の魅力を考える。 ・付属語の違いで文の内容が変わることを知り、助詞の働きと種類について理解する。 ・場面の様子や人物の気持ちが効果的に伝わるように描写を工夫して書く。 ・話し言葉と書き言葉の違いについて考え、それぞれの特徴を捉える。 ・送り仮名の主な原則について理解する。 ・一年間の学びをふり返り、国語を学ぶ意義を考える。 ・作者の物の見方を捉え、自分の考えを広げる。

◇社会科 年間の学習計画とシラバス

(社会科の目標)

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。【中学校学習指導要領より】

(授業で使用するもの)

【必ず必要】 ○各分野の教科書 ○ノート

【必要に応じて】 ○地図帳 ○ワーク(定期テスト・単元テスト勉強用) ○タブレット

(評価の観点・方法)

社会科では、定期テストの点数だけでなく、単元テスト(定期的に実施)、授業中に実施した小テスト、ノート・ワーク・ワークシートなどの課題や提出物、授業への取り組む姿勢(出欠・授業態度や忘れ物)などを、観点別に総合的に評価します。観点とは、以下の評価する基準です。それぞれの観点到規準を設け(例:何点以上取れているか、提出物を出しているか、またその内容はどうか、など)、A・B・Cの3段階で評価します。

【観点1. 知識・技能】
定期テスト、単元テスト、小テスト、ワークシート など
【観点2. 思考・判断・表現】
定期テスト(記述問題など)、単元テスト、ワークシート など
【観点3. 主体的に学習に取り組む態度】
定期テスト、単元テスト、ノート・ワークなどの提出課題 など

社会科2年 年間の学習計画（週3時間／年105時間）

	1 学期	2 学期	3 学期
学 習 内 容	【地理的分野】 第3編 日本のさまざまな地域 第2章 日本の地域的特色と地域区分 地形、気候、地震・火山災害・ 気象災害、人口、資源・エネルギー、 産業、交通・通信などからみた日本 の地域的特色と地域区分 【歴史的分野】 第4編 近世の日本と世界 ①中世から近世へ ②江戸幕府の成立と東アジア ③産業の発達と元禄文化 ④幕府政治の改革と農村の変化	【地理的分野】 第3編 日本のさまざまな地域 第3章 日本の諸地域 ①九州地方 ②中国・四国地方 ③近畿地方 ④中部地方 ⑤関東地方 ⑥東北地方 ⑦北海道地方 【歴史的分野】 第5編 近代の日本と世界 第1章 日本の近代化	【歴史的分野】 第5編 近代の日本と世界 第1章 日本の近代化 ①欧米の発展とアジアの植民 地化 ②近世から近代へ ③近代国家へのあゆみ ④立憲制国家の成立 ⑤日清・日露の戦争と東アジア の動き ⑥近代日本の社会と文化

◇数学科 年間の学習計画とシラバス

（数学科の目標）

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。

（授業で使用するもの）

・教科書 ・ノート ・ワーク ・直定規 ・必要に応じて、コンパス・のり・はさみ

（数学科の学習の進め方）

1. 学習があった日に、学習した内容を家庭で復習しましょう。
2. 学習したことを理解、活用できるようになるために、自分にあった学び方を考え、計画的に取り組みましょう。
うまく成果が現れないときは、学び方（やり方など）を修正したり、先生に相談したりしましょう。
3. 演習をしっかりと行いましょう。
知識、技能の習得、または活用するために、プリントやワークがあります。これらをしっかりと取り組み、提出しましょう。

（評価の観点）

具体的には以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の目安を定め、それに基づいて評価します。

【観点1. 知識・技能】
数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解しているか、事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能を身に付けているかを、定期テスト、小テスト、単元テスト、課題テストなどで評価します。
【観点2. 思考・判断・表現】
数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けているかを、定期テスト、小テスト、単元テスト、課題テストなどで評価します。
【観点3. 主体的に学習に取り組む態度】
知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けて、粘り強く取り組んでいるかどうか、学び合いを通して自らの学習を調整しながら、よりよく学ぼうとしているかどうかを、定期テスト、小テスト、単元テスト、課題テストなどで評価します。提出課題は、ただ取り組みれば良いのではなく、自身の習熟度に合わせて工夫して取り組むようにしましょう。

数学科2年 年間の学習計画と学習のねらい(週3時間/年105時間) ※進度はあくまで目安です。

学期	月	学習内容	学習のねらい
1	4	オリエンテーション	・学習の目標、授業の受け方、家庭学習の仕方などを考え計画をたてる。
		1. 式の計算	・単項式、多項式、項の意味を知る。 ・同類項の意味を理解し、計算ができる。 ・多項式どうしの加法・減法、単項式どうしの乗法・除法ができる。 ・文字を用いた式を作ることができる。 ・等式変形することの意味を理解する。
	5		
	6	2. 連立方程式	・2元1次方程式とその解の意味を理解する。 ・基本的な連立方程式が解ける。
	7		・1次関数の意味を理解する
2	8	3. 1次関数	・グラフの読みかきができる。 ・グラフの交点が連立方程式の解と一致することを理解する。 ・グラフを利用して、身近な問題を解けるようになる。
	9		
	10	4. 図形の性質と合同	・多角形の性質を理解する。 ・対頂角・錯角・同位角を理解する。 ・平行線の角の性質を理解する。 ・三角形の合同条件を理解する。 ・証明のしくみについて理解し、簡単な証明をすることができる。
	11		
	12		・定義と定理の違いを理解する。 ・特別な三角形(二等辺三角形・直角三角形・正三角形)の性質を知り、それを使って図形の性質を証明することができる。 ・直角三角形の合同の証明ができるようになる。
3	1	5. 三角形と四角形	・平行四辺形の性質を理解し、それらを使って図形の角の大きさや線分の長さを求めることができる。 ・平行四辺形になるための条件を理解し、利用して証明ができるようになる。 ・長方形・ひし形の特徴を知る。 ・等積変形を理解する。
	2		
	3	6. データの分布と確率	・確率の意味を知る。 ・身近な確率の問題を解けるようになる。

◇理科 年間の学習計画とシラバス

(理科の目標)

理科を通じて、自然の事物現象に対する興味や関心を育み、自ら実生活と関連付けながら科学的な知識や理解を深め、定着を図ることを目標とします。また、観察や実験を通して科学的な見方や考え方、表現力、技能を育むとともに、文章やデータ、実験結果などを的確に読み取り、論理的に考察する力を養い、問題解決能力の基礎を培います。具体的には、授業の導入で日常の現象と関連付けながら考えさせ、可能な限り実験や観察を取り入れるとともに、デジタルコンテンツを活用して視覚的・文書的な情報の理解を促します。

(授業で使用するもの)

・教科書 ・ワーク ・ファイル(問題プリントなどをとじる)

(学習のポイント)

- ・授業をしっかり聞いて、黒板の板書を授業プリントに丁寧に写しましょう。
- ・ワークやプリントなどを使って授業の復習をしましょう。
- ・宿題などの提出物は、しっかりと仕上げて期限を守って提出しましょう。
- ・理科はなぜ? どうして? の学問なので、その疑問を解決できるように学習に取り組みましょう。
- ・観察や実験では、ただ手を動かすだけでなく、なぜ? どうして? と考えながら取り組むようにしましょう。
- ・普段から自然・天体現象に興味を持ったり、科学番組や自然番組を見たりするように心がけましょう。
- ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする側面と、それらへの粘り強い取り組みを行う中で、自ら学習を調整しようとする側面、という二つの側面を意識して取り組みましょう。

(評価の観点・方法)

理科では、日常の学習への取り組みや定期テスト、提出物などをもとに総合的に評価しています。
 具体的には次の3つの観点において、それぞれについて評価の目安を定め、それに基づき評価しています。
 よく内容を確認して、学習に取り組むようにしましょう。

【観点1:知識・技能】
定期テスト、小テスト、ノート、ワーク、プリント、実験・観察レポート、パフォーマンステストなどで評価します。
【観点2:思考・判断・表現】
定期テスト、小テスト、ノート、ワーク、プリント、実験・観察レポート、発表、話し合い活動などで評価します。
【観点3:主体的に学習に取り組む態度】
定期テスト、小テスト、ノート、ワーク、課題プリント、実験・観察レポート、発表、授業への取り組み方などで評価します。 ※ノートやワーク、実験・観察レポートに必要事項を書いて提出すれば良い評価になるというわけではありません。 また、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、それらへの粘り強い取組を行う中で、自ら学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価をします。そのため、観点1及び2の状況を踏まえた上での評価となります。

2年 年間の学習計画と学習のねらい(週4時間/年 140 時間)

学期	月	単元	章	生徒観察・実験
1 学 期	4 月	[物質] 化学変化と 原子・分子 (30+4)	単元導入 (1), 学ぶ前にトライ! 1章 物質の成り立ち (9)	実験1 炭酸水素ナトリウムを加熱したときの変化【ガ】 実験2 水に電流を流したときの変化【源】 実習1 分子のモデルづくり
	5 月		2章 物質の表し方 (4) 3章 さまざまな化学変化 (9)	実験3 鉄と硫黄の混合物を加熱したときの変化【ガ】 実験4 酸化銅から銅をとり出す変化【ガ】 実験5 温度が変化する化学変化 実験6 化学変化の前後の物質全体の質量 探Q実験7 金属と結びつく酸素の質量【ガ】
	6 月		4章 化学変化と物質の質量 (6) 力だめし、学んだ後にトライ! (1) 科学で宝石を生み出す	
	7 月		単元導入 (1), 学ぶ前にトライ! 1章 生物の体をつくるもの (5) 2章 植物の体のつくりとはたらき (9)	観察1 生物の体のつくりの観察【顕】 観察2 植物と動物の細胞のつくり【顕】 実験1 光合成にともなう二酸化炭素の出入り
		[生命] 生物の体の つくりと はたらき		

2 学 期	9 月	(34+5)	3章 動物の体のつくりとはたらき (12) 4章 動物の行動のしくみ (6) 力だめし, 学んだ後にリトライ! (1) 細胞内のリサイクル機能	観察3 根と茎と葉のつくり【顕】 探Q実験2 唾液のはたらき【力】 実験3 刺激を受けとってから、反応するまでの時間
	10 月	[地球] 地球の大気と 天気の変化 (26+4)	単元導入 (1), 学ぶ前にトライ! 1章 地球をとり巻く大気のように (4) 2章 大気中の水の変化 (6)	観測1 気象要素の観測〔季〕 実験1 空気の体積変化と雲のでき方 実験2 空気中の水蒸気量の推定 実習1 日本付近における低気圧や高気圧の 動きと天気の変化〔季〕 探Q実習2 明日の天気を予想する
	11 月		3章 天気の変化と大気の動き (5) 4章 大気の動きと日本の四季 (9) 力だめし, 学んだ後にリトライ! (1) 海洋と日本の天気の関係	
	12 月		単元導入 (1), 学ぶ前にトライ! 1章 電流の性質 (16)	実習1 階段の照明の回路 探Q実験1 回路に流れる電流 実験2 回路に加わる電圧 実験3 電圧と電流の関係【源】 実験4 電流による発熱量【源】 実験5 静電気による力〔季〕 実験6 電流がつくる磁界【源】 実験7 電流が磁界から受ける力【源】 実験8 発電のしくみ
3 学 期	1 月	[エネルギー] 電流とその利用 (33+4)	2章 電流の正体 (7) 3章 電流と磁界 (8)	
	2 月		力だめし, 学んだ後にリトライ! (1) 電力を“伝送”する	
	3 月			

※年間授業時数 140 時間 ※授業の進度はあくまでも目安です。

◇音楽科 年間の学習計画とシラバス

(音楽科の目標)

- (1)音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てることを目標とします。
- (2)多様な音楽表現の豊かさ美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てることを目標とします。
- (3)多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てることを目標とします。

(授業で使用するもの)

・教科書2・3年上 ・器楽の教科書 ・ワーク ・アルトリコーダー

(評価の観点・方法)

音楽科では、授業態度や実技テスト、定期テスト、提出物などをもとに総合的に判断しています。

具体的には以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の目安を決め、それに基づいて評価します。提出物は指示があったら、必ず提出しましょう。

(評価基準)

各領域ごとの評価のめやす(評価基準)

観点1 知識・技能	観点2 思考・判断・表現	観点3 主体的に学習に取り組む態度
・音楽表現の工夫(理解) ・鑑賞の能力(理解) ・提出物(プリントやワーク) ・歌唱及び器楽の試験 ・定期テスト	・音楽表現の工夫(思いや意図をもつ) ・歌唱及び器楽の試験 ・鑑賞の能力(よさや美しさを味わう) ・定期テスト	・授業への取り組み方 ・授業準備物 ・提出物(プリントやワーク) ・定期テスト

音楽科2年 年間の学習計画と学習のねらい(週1時間/年35時間)

学期	学習内容	学習のねらい
1	1年生の復習	「音符」「リズム」「諸要素の言葉」など、昨年度の復習を行う。
	鑑賞「フーガ短調」	パイプオルガンの音色や響きを味わい、フーガの形式を理解して鑑賞する。
	アルトリコーダー復習	楽器の音色を生かして表現しよう。
	歌唱「夢の世界を」	パートの役割を理解して合唱する。
	歌唱「夏の思い出」	情景を思い浮かべながら、言葉を大切に歌う。
	創作	日本語の抑揚を生かした旋律をつくる。
2	アルトリコーダーに親しもう 「メヌエット・エーデルワイス」他	楽曲や歌詞からイメージを感じ取り、曲想にふさわしい音色を工夫する。 お互いの音を聞きながらアンサンブルをする。
	「荒城の月」	歌詞と旋律が生み出す雰囲気を味わいながら歌う。
	「夏の日の贈りもの」	旋律の動きを理解して合唱する。
	鑑賞「交響曲第5番ハ短調」	曲の構成(ソナタ形式)に注目し、オーケストラの音色や響き、曲想の変化を感じ取りながら鑑賞する。
	合唱(校内音楽会)	歌詞の内容や曲想の変化を感じ取り、主体的に取り組む。
3	アルトリコーダーに親しもう	課題を設定し、成果を発表する。
	鑑賞「文楽：新版歌祭文から…野崎村の段」	文楽に親しみ、その音楽を味わう。声や楽器の音色、旋律の特徴を理解して鑑賞し、日本の伝統芸能の良さを味わう。
	鑑賞「歌舞伎：勧進帳から」	歌舞伎に親しみ、その音楽の特徴などに気を付けながら、よさや美しさを味わう。
	世界の民謡と愛唱歌に親しもう 「サンタ ルチア」他	各地域の音楽の特徴に気づき、それぞれの音楽のよさや美しさを味わう。 世界の声の音楽の特徴を感じ取り、曲想を生かして表情豊かに歌う。
	卒業式の歌 「旅立ちの日に」	詩情を感じ取りながら、感動的で心に残る音楽表現ができるようにする。 先輩を気持ちよく送り出せるように、思いを込めて卒業式の歌を歌う。

◇美術科 年間の学習計画とシラバス

(美術科の目標)

- ・日常生活の身近なものの中から美しい形や色彩を見つけ出し美との出会う喜びを味わわせることを目標とします。
- ・自分がイメージした形や色を描けたりつくったり、また、そこから発想を広げていける能力や感覚を育てることを目標とします。

(授業で使用する基本的な準備物)

- ・教科書 ・美術資料集 ・鉛筆(HB～2B程度の濃さ) ・色鉛筆
- ・アクリルガッシュ(セットは学校で販売済み) ・のり ・その他材料

(美術科の学習の進め方)

1. 授業中は決められた席で作業し、指示がない限り席を移動しないようにしましょう。
2. 忘れ物をしたときは、授業の初めに教科担当の先生に連絡をしましょう。

3. 学校の備品や道具を使用するときは、教科担当の先生に許可をもらいましょう。
4. 時間内での未完成作品については、教師の指示に従い提出期限を守りましょう。

(評価の対象)

・作品 ・定期テスト ・授業の態度 ・忘れ物 振り返りシート

(評価の観点と方法)

観点1 ・表現方法を工夫し創造的に表 す技能	観点2 ・発想や構想に関する資質、 能力	観点3 ・表現活動における主体的に学習に取り 組む態度。 ・創造的な視点を豊かにするための知識
・作品 ・振り返りシート ・テスト	・ワークシート ・作品 ・振り返りシート ・テスト	・授業への取り組み ・ワークシート ・作品 ・定期テスト

美術科2年 年間の学習計画と学習のねらい(週1時間/年35時間)

学期	学習内容	ポイント	評価
1	・構成美の要素 ・ピクトグラムデザイン 観賞 原始の美術と奈良の美術	家庭や学校での日常生活を演出したり、 建築や都市空間に生かされる文字のデ ザインの効果や美しさに関心を持つこと ができる。 作者の生涯や時代背景について関心を 持ち、主体的に鑑賞しようとする。	・伝えたい内容や使う場面、場所などを考え、 目的に 応じて形や色を工夫し、 楽しい文 字、美しい文字をデザインする 美術の始まりと地域の美術との造形的魅力や 形式的特性に気づくことを通して、色や形がも つ美しさや良さを感じることができる。
	夏休み宿題	ワークシート	・自然や生活に息づく色、造形作品に 生かさ れる色彩の よさや美しさに気 づき、その性質 や 感情への影響について理解し効果を 工 夫して用いる。
2	・ステンドグラス作り 鑑賞 日本の美術と世界の美術	ステンドグラスに関心を持ち、楽しく生き 生きと表現することができる。 鑑賞活動を通して日本の美術の概括的 変遷や固有の特色などに興味や関心 を持つことができる。	・対象物の形や色彩 の特徴をとらえてスケッ チをする。 ・スケッチをもとに 図案を描き、効果的な混色 や配色を工夫する。 ・制作の手順や方法を考え、計画的に制作す る。 ・日本の美術について、そ の時代や社会の 変化、諸 外国との交流に着目し、 興味や関 心を持って鑑賞 し、日本の美術の概括的 変 遷や固有の特色などへ の興味や関心を高 め、文 化と伝統などについて理 解し、その 見方や感じ方 を深める。
3	・工芸制作	連続模様などを活かし色合いや構成を 考えながら表現する。	・対象物の形や色彩 の特徴をとらえてスケッ チをする。 ・スケッチをもとに 図案を描き、効果的な混色 や配色を工夫する。 ・制作の手順や方法 を考え、計画的に制作 する。

◇保健体育科 年間の学習計画とシラバス

（保健体育科の目標）

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のために実践力と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てることを目標とします。

（体育分野の目標）

- ①（１、２年）運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身に付け、運動を豊かに実践することができるようにします。
（３年）運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、知識や技能を高め、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにします。
- ②（１、２年）運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る。
（３年）運動を適切に行うことによって、自己の状況に応じて体力の向上を図る態度を育て、心身の調和的発達を図ります。
- ③（１、２年）運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組み、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善をつくして運動する態度を育てます。
（３年）運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、参画するなどの意欲を育てると共に、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てます。

（保健分野の目標）

個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく脂質や能力を育てる。

（評価の観点及びその趣旨）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身につけている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者につたえている。また、個人における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

（体育分野の評価の観点・方法）

知識・技能	思考・判断・	主体的に学習に取り組む態度
各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解しているとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	運動を豊かに実践するための自己の課題を発見し合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲を持ち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。

定期テスト 発問に対する発言内容 実技テスト 行動観察 (練習・試合での技能)	学習カード・プリント 学習ノート 行動観察 (練習内容・質問内容)	授業態度 (出欠席・見学・遅刻・服装・忘れ物)(協力・発言、試技回数) 提出物(学習カード・ノート・プリント)
---	--	---

(保健分野の評価の観点・方法)

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達や心の健康と環境、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達や心の健康と環境、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達や心の健康と環境、傷害の防止、健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。
定期テスト 発問に対する発言内容	学習ノート 学習プリント 行動観察	授業への取り組み方(忘れ物・発言) 提出物(学習ノート・プリント)

保健体育科2年 年間指導計画(週3時間/年105時間)

学期	男女	保健・体育理論	体育的行事
1	体づくり運動 球技(ゴール型) 陸上競技(走り幅跳び) 器械体操(跳び箱運動) 水泳	・傷害の防止 ・健康な生活と疾病の予防 ・運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方	スポーツテスト(6月)
2	体づくり運動 水泳 ダンス 球技(ベースボール型) 球技(ネット型) 陸上競技(長距離走)		体育祭(10月)
3	体づくり運動 陸上競技(長距離走) 武道 球技(ゴール型) 球技(ネット型)		

◇技術・家庭科 年間の学習計画とシラバス

第二学年では、前期(1学期～2学期前半)に家庭を行い、後期(2学期後半～3学期)に技術を行います。

○ 技術科

技術科は、年間を通じて次のような目標を立て、観点別評価を行います。

（学習目標）

生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を身につけることを目標とします。

（学習内容）

3年間で技術分野は「材料と加工の技術」、「エネルギー変換の技術」、「生物育成の技術」、「情報の技術」の4項目が学習内容になっています。2年生では、1年生に引き続き「材料と加工の技術」について学習した後、新しい内容である「エネルギー変換の技術」について学習予定です。内容は、エネルギー利用について・電気機器を安全に利用する・教材の製作・社会や環境との関わりについて学習します。

（授業で使用するもの）

・教科書・ノート（プリントを貼る用）・授業中に配布するプリント

（評価の観点）

観点1 知識・技能	観点2 思考・判断・表現	観点3 主体的に取り組む態度
生活や社会で利用されている材料と加工の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係わる技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。 身の回りの電気機器の基礎的な知識をつけ、安全に利用できる技能を身につける。	生活や社会の中から技術に係わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。 これからの社会に関わるエネルギーについて考え、自分の意見を持ち課題に対して判断できる力を養う。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
評価の方法 ・テスト(課題テスト含む) ・授業プリント ・技能課題 など	評価の方法 ・テスト(課題テスト含む) ・話し合い活動 ・授業プリント ・発表 など	評価の方法 ・テスト(課題テスト含む) ・授業への取り組み姿勢 ・授業振り返り など

技術科2年生の学習計画(週1時間／年35時間)

期間	学習内容	学習のねらい
2学期後半	・木材を使った制作 ・社会や環境との関わり ・エネルギー利用について ・電気機器を安全に利用する	・自身が見つけた問題の解決に向けて、作品を設計することができる。 ・実際にけがきを行い、のこぎりによる切削加工を行い、部品の検査修正を行うことができる。正しくげんのうを使っての釘打ちによる接合を行うことができる。 ・自身が設計した作品を評価することができる。 ・材料の技術、材料を加工する技術の視点から社会や環境問題などについて考え、自分の意見を表すことができる。 ・エネルギーの種類や利用方法などを理解することができる。 ・身の回りの電気機器を安全利用するためにどうするか考えることができる。
3学期	・教材の製作 ・これからの発電方法について考える	・はんだづけを正しく安全に行うことができる。電気回路について理解することができる。 ・エネルギーの利用による社会・環境への影響などを理解し、エネルギー利用について考えることができる。 ・どのような発電方法がこれからの社会で利用されていくのか考え、自分の意見を持つことができる。

（学習方法について）

『学校』

- ・授業に必要なものをきちんと準備しましょう。
- ・先生の指示以外でも、気付いたことや重要だと思ったことは、プリントや教科書にどんどん書き込んでいきましょう。
- ・プリントの記入をしっかりとしましょう。
- ・実習では、工具などを使います。けがなく安全な制作を心がけましょう。

『家庭』

- ・学習した内容の復習を行い、定着させましょう。
- ・身の回りの技術について、興味を持ってみましょう。学校で勉強した技術を身の回りから探してみましょう。
- ・何か授業内容以外の技術について疑問に思ったことがあれば、調べてみましょう。

○ 家庭科

（家庭科の目標）

生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通じて、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を、養うことをねらいとします。

1. 家庭科2年 学習のねらい

学習のねらい	【衣生活・住生活と自立】 ①住居の基本的な機能について理解し、家族の生活と住空間のかかわりと日本の住まいについて理解する。 ②家族の安全を考えた住空間の考え方について理解し、具体的な整え方を工夫する。 ③自然や人にやさしい住まい方の工夫を知る。 ④衣服と社会生活のかかわりを理解し、目的に応じた、個性を生かす着用や適切な衣服の選択について考える。 ⑤材料や状態に応じた日常着の手入れ(選択、アイロンがけ、補修)の仕方を習得する。 ⑥布を用いて生活を豊かにするものを考案し、合理的な手順を考え製作する。 ⑦現代の衣生活が環境に与える影響を知り、環境に配慮した衣生活の工夫を考える。 【家族・家庭生活】 ①家庭分野の学習に見通しをもち、3年後になりたい自分になるための課題を明らかにする。 ②自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解する。
	使用教材 ・技術・家庭 家庭分野（開隆堂） ・家庭科ワークノート（地域教材社）

2. 評価の観点および方法(テスト前やテスト後に指示があったら、忘れずに提出しましょう。)

評価の観点		評価の方法
①知識・技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	・ペーパーテスト ・学習プリント ・計画・実践記録表 ・行動観察など
②思考・判断・表現	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・話し合い等の学習活動 ・学習カード ・計画・実践記録表 ・活動記録をまとめたポートフォリオ ・行動観察 ・ペーパーテストなど

③ 主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	・行動観察(授業中の発言) ・学習プリントやノート ・計画・実践記録表等 ・学習記録をまとめたポートフォリオ ・タブレット等によるレポート
-----------------	--	---

3. 学習計画(週 1 時間／年 35 時間)

学期	学習内容(時数)	学習のねらい
1 学期	《衣生活・住生活と自立》 1. 住まいのはたらき 2. 健康で安全な住まい 3. 住まいと地域 4. 日常着の活用 5. 日常着の手入れ 6. 布を用いたものの製作	・住居の基本的な機能について理解し、家族の生活と住空間のかかわりと日本の住まいについて理解する。《知・技・主》 ・家族の安全を考えた住空間の考え方について理解し、具体的な整え方を工夫する。《知・技、思・判・表、主》 ・自然や人にやさしい住まい方の工夫を知る。《知・技・主》 ・衣服と社会生活のかかわりを理解し、目的に応じた、個性を生かす着用や適切な衣服の選択について考える。《知・技、思・判・表、主》 ・材料や状態に応じた日常着の手入れ(選択、アイロンがけ、補修)の仕方を習得する。《知・技・主》 ・布を用いて生活を豊かにするものを考案し、合理的な手順を考え製作する。《知・技、思・判・表、主》 ・現代の衣生活が環境に与える影響を知り、環境に配慮した衣生活の工夫を考える。《思・判・表、主》
2 学期前半	《家庭・家族と子どもの成長》 1. 自分の成長と家族・家庭生活 《衣食住の生活(食生活)》 4. 日常食の調理	・自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解する。《知・技・主》 ・食品や調理用具等の安全と衛生に留意しながら、基本的な調理操作を身に付ける。《知・技・主》

(授業で使用するもの)

・教科書 ・ノート ・プリント ・映像機器 ・ICT 機器

(学習方法について)

『学校』

- ・授業に必要なものを準備しましょう。
- ・授業は積極的に取り組み、プリントやノートも見やすくまとめましょう。
- ・実習は学んだことを体験する貴重な機会です。真面目に取り組みましょう。

『家庭』

- ・学習したことを家で実践し、復習と定着に努めましょう。
- ・授業を自分の家庭生活をふり返る機会とし、より良くする手だてを各自でよく考えましょう。
- ・新聞やテレビなどからの、生活に関わる情報に関心を持ちましょう。

◇英語科 年間の学習計画とシラバス

(英語科の目標)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと(やり取り・発表)、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質能力を養う事を目標とします。

(授業で使用するもの)

・教科書 ・ノート ・ワークブック ・ファイル ・(タブレット)

(評価の観点・方法)

英語科では、以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の目安を定め、それに基づいて評価します。
定期テスト、小テスト、パフォーマンステストについては、日々の予習復習に加え、事前の準備をしっかりとしましょう。
ノート、ワークなどの提出物の評価については、その後に実施される各小テストの内容を見て評価しますので、ワークの内容がどれだけ習得されているかにこだわって取り組みましょう。学習の手引きを参考にして、日々主体的に取り組ましましょう。

【観点1. 知識・技能】
定期テスト、小テスト(単語テスト、単元テスト)などで評価します。
【観点2. 思考・判断・表現】
定期テスト、小テスト(単元テスト)、パフォーマンステストなどで評価します。
【観点3. 主体的に学習に取り組む態度】
ノートの内容、小テスト(単語テスト・単元テスト)、定期テストの取組などで評価します。

英語科2年 年間の学習計画と学習のねらい(週4時間/年 140 時間)

学期	学習内容	学習のねらい
1	オリエンテーション	・観点別に、授業の受け方、評価、家庭学習の仕方などについて確認する。
	【Unit 1】	・will + 動詞の原形の用法を理解し、未来の予測や自分の意志を伝えることができる。 ・be going to + 動詞の原形の用法を理解し、予定を言うことができる。 ・接続詞 that の用法を理解し、自分の考えを言うことができる。 ・号外の英字新聞を読んで、記事に込められたメッセージを読み解く。 ・イベントの企画を考えて、発表することができる。
	【Let's Talk 1】	・Will you ~?を用いて依頼することができる。
	【Let's Listen 1】	・天気予報を聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。
	【Unit 2】	・不定詞の副詞的用法①を理解し、何かをする目的を説明することができる。 ・不定詞の形容詞的用法を理解し、何かについての説明を加えることができる。 ・It is ... (for + 人) + to + 動詞の原形 の用法を理解し、人にとって重要なことや難しいことなどを言うことができる。 ・長岡花火のプレゼンテーションを聞き、歴史や意味を読み解く。 ・祭りについておおまかな内容や自分の考えを伝えるスピーチをすることができる。
	【Let's Talk 2】 【Let's Write 1】	・不定詞の副詞的用法②を理解し、感情の原因を説明することができる。 ・おすすめの旅行先を紹介するメールを書くことができる。
	【Unit 3】	・助動詞 must の用法を理解し、義務や禁止事項を伝えることができる。 ・have to ~, don't have to ~ の用法を理解し、しなければならないこと(する必要がないこと)を言うことができる。 ・助動詞 should の用法を理解し、助言することができる。 ・シンガポールについての説明文を読んで、要点を捉える。

	【Let's Listen 2】	・学校のルールを紹介する文章を書くことができる。 ・空港や機内のアナウンスから必要な情報を聞き取り、ほかの人に伝えることができる。
	【Project 1】 【Let's Read1】	・日本文化について紹介する一貫性のある文章を書くことができる。 ・物語を読んで、登場人物の行動や心情の変化、あらすじなどを捉えることができる。
2	【Unit 4】	・There is 【are】の用法を理解し、何があるのかを話したり、たずねたりすることができる。 ・疑問詞 + to 動詞の原形の用法を理解し、たずねたりすることができる。 ・動詞 + 人 + 疑問詞 to 動詞の原形の用法を理解し、説明することができる。 ・防災対策の放送を聞きとることができる。 ・災害発生時のとるべき行動について、説明することができる。
	【Let's Talk 3】	・目的地までの行き方をたずねたり説明したりすることができる。
	【Unit 5】	・接続詞 if の用法を理解し、ある条件のときにどうするかを言うことができる。 ・接続詞 because の用法を理解し、理由を言うことができる。 ・接続詞 that の用法を理解し、自分の考えを言うことができる。 ・職場体験のお礼の手紙から、職場体験で学んだことを読み解く。 ・将来の夢とそれを実現するために取り組むことなどについて書くことができる。
	【Let's Talk 4】	・Would you ~? や Shall I ~? を用いてレストランでの会話を理解することができる。
	【Unit 6】	・call A B を使って、人やものの呼び方を表すことができる。 ・make A B を使って、状態の変化を表すことができる。 ・動詞 + 人 + to 動詞の原形を用いて人に頼んだり命令したりすることができる。 ・SNS の会話から4人の合唱コンクールのやりとりについて理解することができる。 ・友だちの悩みに対して、自分の気持ちや考えを整理してアドバイスを書くことができる。
	【Let's Listen3】 【Project 2】 【Let's Read2】	・留守番電話に残されたメッセージを聞いて必要な情報を聞き取り、返事をするすることができる。 ・30年後あったらいいなと思うものについて機能や具体例を話すことができる。 ・物語を読んで、あらすじや男の子の心情を捉えることができる。
3	【Unit 7】	・比較級、最上級の用法を理解し、人やものについて、比較して説明することができる。 ・比較級、最上級 (more, the most) の用法を理解し、つづりの長い形容詞を使い、比較説明することができる。 ・as ~ as ... の用法を理解し、人やものについて、「...と同じくらい〜」と言うことができる。 ・世界遺産の課題を読み解く。 ・場所や建物、人、ものなどを理由を示しながら紹介するスピーチをすることができる。
	【Let's Talk5】 【Let's Write2】	・体調について説明したりアドバイスすることができる。 ・日本の習慣やマナーをまとまりのある文章で紹介することができる。
	【Unit 8】	・受け身の用法を理解し、ものごとを紹介することができる。 ・受け身の疑問文・否定文の用法を理解し、ものごとをたずねることができる。 ・助動詞を含む受け身の用法を理解し、できることや未来のものを紹介することができる。 ・食の多様性についてのプレゼンテーションについて内容を理解する。 ・地域の食べ物について紹介することができる。
	【Let's Talk 6】 【Let's Listen 4】	・相手に許可を求めることができる。 ・ラジオ番組を聞いて必要な情報を聞き取り、伝えることができる。
	【Project 3】 【Let's Read3】	・ディスカッションのテーマに関して、自分の意見を理由とともに述べるすることができる。 ・伝記を読んで、出来事を時系列に沿って整理し、内容を捉えることができる。